
F a m i l y !!

Sakura

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Familly!!

【ZINE】

Z2042Q

【作者名】

Sakura

【あらすじ】

当小説は、VOCALOIDの一次創作小説です！！いろいろキヤラ捏造をしておりますが、どうぞご了承下さい（礼） 小説の更新頻度は遅めですが気長に待っていただけたら幸いです^ ^ ;この小説はマスター（私にあらずww）とVOCALOID達のお話ですちょいKAITO寄りになります！マスターは腐女子という設定なので、BL要素が出てくると思います（ただしボカロ同士の恋愛は非BLです）。また、グロ表現が展開によつては出てくると思いますので予めご了承下さい（礼）。また、展開では他ジャンルと

クロスオーバーする可能性があります…！！（現時点では未定です）

【設定（必読…）（前書き）

本小説の説明です！！登場人物（マスター・VOCALOID）や、
世界設定などについて書かれてあります^_^

【設定（必読！）】

【VOCALOID設定】

この小説では、VOCALOIDはPCでインストールすると、アンドロイドとして現実世界に身体を持つて生まれてきて、アンインストールすると消滅するという設定にしております。時代設定は現代です（2010年以降）。VOCALOIDはまだあまり一般社会には浸透していないが、人間との区別があまりつかない為、外を出歩いてもVOCALOIDということはばれないという設定です。ただし、VOCALOID同士だと初対面でもすぐに分かります。また、同じVOCALOIDでも所有者や製造番号（というのかな？）によって性格は異なつております。例を言つと、小説冒頭から出てくるほかのマスターの元に居る初音ミクと、友枝家に居る初音ミクの性格が全く違うというのがまさにそれです。

【キャラ設定】

【はじめに】

当ストーリーにはやたらリアルな表現（某動画サイトでのHNやVOCALOID達の曲名など）が出てきますが、フィクションであり実在はしません（多分…^_^;）。時々、二回動でUPされている有名な曲名などが登場する場合がありますが、それについて二次小説を書くことはありません！！

マスター ・ 友枝 桜 【一人称：私】

32歳の社会人。某大手メーカーに勤めているキャリアウーマンでとても美人。しかし家に帰れば仕事のできるキャリアウーマンから、趣味に溺れる腐女子へと変貌。VOCALOID達のマスター

で、（本人曰く）とても充実した毎日を過ごしている。VOCALOID達からは名前で呼ばれている（最初はみんなマスターと呼んでいたが、本人が名前で呼んで欲しいと言った為）。家に居る時はニコニコ動画、YouTubeに入り浸りという非常に残念な生活を送っている。しかし、ニコニコ動画ではVOCALOID達と共に数々のヒット曲を作り出していて投稿すれば余裕で殿堂入り・ミリオン達成するほどの腕前。故にニコニコ動画での知名度は高く、ニコニコ動では“サクラP”という名前でとても有名。しかし決して自意識過剰になることはない。VOCALOID達をただのソフトとして扱っているのではなく、“生きた人間”として接している為、VOCALOID達からの信頼は厚い。ただし、マスターとして尊敬はされているものの、家族同然の接し方であり、VOCALOID達も桜に対しては結構言いたい放題言っている。1人暮らしだが結構広い一軒家に暮らしていて、VOCALOID達に部屋が宛がわれている。桜には暗い過去があるが、VOCALOIDはそれを知らない。何故、こんな広い家に1人で暮らしているのかも、誰も知らない。

登場するVOCALOID達

・KAITO【一人称：僕】

友枝家の元に訪れた最後のVOCALOID。前のマスター達に散々こき使われた拳句、いらないと言われ手放され、いろんなマスター達の元を転々としてきた。その為、人間や他のVOCALOID達に対して心を閉ざしている。しかし、このアツトホームな友枝家で過ごす内に、本来の自分を取り戻した。面倒見がよくとても優しい。そしてアイス（特にダツツと31）をこよなく愛している。若干頼りない部分もあり、しばしばヘタレ扱いされる事もあるが皆からはとても好かれている。

・初音ミク【一人称：私】

友枝家に最初にやつて来たVOCALOID。可愛らしい容姿からは想像も付かない毒舌を吐く事もあるが、普段はとても明るく優しい女の子。がくぼとKAITOを兄のように慕っている。リンとは仲良しで、結託して悪戯を仕掛けたりする無邪気な一面もある。武器は長ネギ。

・弱音ハク【一人称・私】

ミクの親戚にあたる派生VOCALOID。とても美人ではあるが、自分から積極的に話しかける方ではなく、名前の通りどこか弱気な部分が多い。いつもミクやMEIKOにリードしてもらっている。よくMEIKOの家事を手伝っている。男の人と2人きりになるのが苦手（何を喋つたらいいのか分からなくなるらしい）。外見からは想像も付かない酒豪。MEIKOやがくぼはよき飲み相手。

・巡音ルカ【一人称・私】

友枝家で一番無口なVOCALOID。表情もポーカーフェイスで何を考えているかマイナチ分からぬ事もある。しかし皆とのコミュニケーションはしつかりと出来ていて、彼女がとても優しく、人一倍頑張り屋だということを知っている。マスターである桜を溺愛していて、よく桜の後ろをチョコチョコと付いて回っている。桜もそんなルカが可愛くて溺愛（笑）またMEIKOの事も大好きで、よく一緒にショッピングに出かけたりしている。

・鏡音リン【一人称・リン】

鏡音レンの双子の姉のVOCALOID。少し我侭なところがあるが、とてもしつかりしている。マスターである桜や、他のVOCALOID達に悪戯を仕掛けてその反応を見て面白がったりしている。友枝家中では一番やんちゃなVOCALOID。MEIKOの事は姉のように慕っている（むしろ崇めている）。夢はサンタにロードローラーを貰う事らしいが、その夢はまだ叶っていない。

・鏡音レン【一人称：オレ】

鏡音リンの双子の弟のVOCALOID。とても賢く、VOCALOID達の中ではとても頭が良い。しかしその姿から、マスターである桜の萌えの餌食とされ、それが悩みの種（しかし桜の事はなんだかんだ言って大好き）。夢はリン同様、サンタにロードローラーを貰う事らしいが、その夢はリン同様まだ叶っていない。

・MEIKO【一人称：あたし】

友枝家に君臨するVOCALOID達のボス（笑）仕事で忙しい桜の変わりに家事全般をこなしたりしている。好きなものはお酒で、飲み相手はがくぼとハク。KAITOが加わり、KAITOも飲み仲間となつた。最初、心を開ざしていたKAITOをとても心配していたが、KAITOが心を開くようになってからは、いいようにこき使つたり、また一緒に出かけたりしている。VOCALOID達からは姉のように慕われている。

・神威がくぼ【一人称：私】

和を愛する孤高のVOCALOID。口数は少ないが、性格はとても優しく妹・弟達の面倒見もとてもよい。基本、1人で居る事が多いが決して人と接する事が嫌いというわけではない。桜が、がくぼの声の元となつた中の人、がくぼの大好きな為、よくその人の楽曲を歌わされたりしているが嫌な顔一つせずにそれに応じている。MEIKO・ハクはよき飲み相手。いつも冷静沈着だが、思考回廊が若干他と外れている残念な子。また、KAITOとも年齢的に近いこともあり、一緒に居る事が多い。

登場するVOCALOID達は皆、自分達と1人の人間として接してくれる桜が大好きです。そしてVOCALOID同士も色々好き放題言っていますが、皆とても仲良しです。

桜が呼ぶVOCALOID達のあだ名

- ・ KAITO カイト
- ・ 初音ミク ミク
- ・ 弱音ハク ハク
- ・ 巡音ルカ ルカ
- ・ 鏡音リン リン
- ・ 鏡音レン レン
- ・ MEIKO メーちゃん
- ・ 神威がくぼ がっくん

VOCALOIDが呼ぶVOCALOID同士のあだ名
基本はみんな名前で呼び合いますが、キャラによつては名前の後ろ
に“兄”や“姉”が付いたりします。ただしがくぼだけは、名前の
後に“殿”と付けて呼びます（例：ミク殿）。あと、KAITOと
MEIKOの事は台詞の時だけカイト・メイコとカタカナ表記しま
す。基本、皆タメ口です。

VOCALOIDが呼ぶ桜のあだ名
基本はそのまま“桜”と呼びますが、例のじとくがくぼだけは“桜
殿”と呼びます。みんなタメ口で喋つてます。仲良しです（笑）

年齢関係

詳しい年齢設定はしておりませんが、何となくの年齢関係を年齢が
高そうな順に並べます（笑）

MEIKO

神威がくぼ

KAITO

弱音ハク

巡音ルカ

初音ミク

鏡音リン・レン

多分こんな感じじゃないかなと…（笑）個人的には、MEIKO・KAITO・がくぽは同じ年ぐらいじゃないかと思つていますが…一応こんな感じで（笑）

友枝家でのVOCALOID達の部屋割り

- ・ 桜
- ・ MEIKO・巡音ルカ
- ・ 神威がくぽ・KAITO
- ・ 鏡音リン・レン
- ・ 初音ミク・弱音ハク

基本、誰の部屋も出入りは自由だがリンとレンだけは桜の部屋への出入りは、歌う時と桜が居る時以外は禁じられている（過去にメインPCを壊すという惨事を起こした為）。部屋割りは一応決められているが、結構自由に誰の部屋でも寝泊りしている。

今のところ、これ以外のVOCALOIDの登場予定はありませんが、話の展開によつては追加される可能性もあります^ ^

01・VOCALOID（前書き）

プロローグのような内容ですが、KAITOが友枝家にやつてくるまでのお話と、友枝家のVOCALOID達の説明のような小説です^ ^

01・VOCALOID

【01・VOCALOID】

歌う為に生み出されたアンドロイド。

様々な格好、声音でマスター達の手により彼らは輝く。

彼らは皆、こう呼ばれている。

“ボーカロイドVOCALOID”と。

* * * * *

彼、KAITOもそんなVOCALOIDの一人だった。しかし彼は今、自分の人生に悲観している。

「おい、カイト！ 何でこんな歌も歌えないんだ！ …… イントネーションがおかしいだろう！ ？」

「すみません、マスター…」

「チツ、やつぱりミクたんの方が使い勝手がいいなあ… … つたく、さすが失敗作だぜ。お前だと需要も少なくて、再生数も伸びないんだよ！ ！」

「… „Jめんなさい…』

初めてインストールされ、目覚めた時…田の前の男はものめずらしいものでも見るかのようにKAITOをまじまじと見つめていた。そして、「まあ、女なら食いつくかな~」なんてぼやきながらKAITOを傍に置いたのだ。しかし思いの他扱いが難しく、思つよつな曲が出来ない。

「なあに、カイトったらまたマスターを怒らせたの?ホント、黙目よねえ…」

そんなKAITOを嘲笑うのは、マスターのお気に入りである初音ミクだつた。マスターいわく、彼女は最高のVOCALOID。そして、KAITOは最悪のVOCALOIDらしい。

「知ってる?マスター、あなたの事アンインストールするらしいわよ?」

「え…っ?」

「クスッ、ホント…出来が悪いとすぐにポイ。恨むなら自分の歌唱力の無さを恨むのね」

そして、ミクの言つた通り…

「カイト、俺にとつてお前はもつ用済みだ。」

「待つてください、マスター!!今度は頑張ります、だから…!」

「ばーか、お前のために書く曲なんかねーよー…じゃーな…」「マースター…」

KAITOはいとも簡単にアンインストールされてしまつ。そのままKAITOは深い眠りへと付いた。

そうしてKAITOは人から人へ渡り、転々と回され、インストールされではアンインストールされるということが何度も繰り返された。

いつからだつたか…KAITOはマスター、そして他のVOCALOID達へ心を開く事をしなくなり、ただ一人孤独に存在していた。マスターになる者達からは扱いづらいと嫌われて、他のVOCALOID達からは役立たずだと笑われて。

こんな嫌な思いをするくらいなら、いっそ生まれてこなければよかつたと…KAITOは自分の人生を呪つた。

そしてまた…

「ばいばい、カイトちゃん。もう用済みだから、じゃーね」

心無いマスターの手により、アンインストールされる。

KAITOは1人、真っ白な部屋にいた。アンインストールされた後はいつも…この部屋に戻される。そしてたつた1人で、次にインストールされるまでここで待ち続けるのだ。

いや、KAITOはもうインストールされる事など待つてはいなかつた。

「もうこのまま、僕を廃棄してくれ…」

どうせ同じ事が繰り返されるなら、いっそ『//』として処理された方がいい。膝を抱え、顔を埋めながら…

「もう…疲れたんだ…」

KAITOは静かに涙を流した。

* * * * *

友枝家…

「桜ツ…！起きなさい、遅刻するわよ…！」

「んあつ…？メーちゃん…？おつはー…」

ここは友枝家。家の住人は友枝ともえだ 桜さくらで、彼女を起こしたのはVOCALOIDの一人、MEIKOだ。MEIKOに起こされ、はつきりしない頭で暫くボーッとしていたが…

「うわっ、やばい！！遅刻する…！」

「だからそう言つてるでしょ？朝食はハクが用意してるから。」

「うん、メーちゃんいつも有難う」

「ほり、お礼はいいから」

時計を見て、慌てて着替えてリビングへと下りていく。するとそこには既に、友枝家に居座っているVOCALOID達が揃っていた。

「あ、桜おはよーーー！」

何故か朝から、元気になきを振り回しているのは…この家にもっとも長く居候しているVOCALOIDの初音ミクだ。余談ではあるがVOCALOIDにも性格があり、同じVOCALOIDだからといって同じ性格だとは限らない。例えば、初音ミクといつVOCALOIDは彼女を使うコーナーの数だけこの日本に存在している。その一人ひとりに、それぞれ性格があるのだ。

「とこりでミクは、何で朝からなきを振り回しているの?」

「あ～、これ?だつて…」

「おはよー、桜殿」

「お、がっくん！おはよー」

桜ががっくんと呼んだのはVOCALOIDの1人で、数居るVOCALOIDの中でも和を強調されているVOCALOID・神威がくぽだ。寡黙な孤高のVOCALOIDだが、友枝家の暫定長男として妹や弟達の面倒をしつかりと見てくれている。しかし何故彼は朝から、ミクにねぎで叩かれていたのだろうか?

「がっくん、ミクに何かしたの?」

「桜、聞いてよ…がくぽ兄つたら、私のプリン食べたんだよ…?信じられない…!…」

「それで今、私はミク殿から怒られている。」

「……黙つて怒られるなんて、何といつか…がっくんらしいわね…」

「まだミクの怒りは収まらないらしく、ねぎでペチペチとがくぽの頭を叩き続けていた。

「おはよー」

「おはよー

2人の攻防（というか一方的にがくばがやられているだけだが）を苦笑しながら見つめていると、テーブルの方から同じ声が2つ聞こえてきた。

「リン、レン、おはよう つて……もつ！…また2人とも服と髪型を変えて…！それで私を騙すつもりだったの？」

「あはは、やっぱり桜って凄い…！」

「何でオレ達のこと、そんなにすぐに見分けがつくの？」

「なめるなよ～？これでもお前達のマスターなんだからな～…！」

ワシャワシャと桜に頭を撫でられて嬉しそうに笑っている金髪の2人は、双子のVOCALOIDで鏡音リンと鏡音レンだ。まだ幼さが残る2人は悪戯好きで、何かと桜に悪戯を仕掛けてくる。よく似た双子のため、他のVOCALOID達は今日のようになんか簡単に見分けを付ける事は出来ないのだが、桜はいともえられたらすぐに見分けを付ける事は出来ないのだが、桜はいとも簡単に見分けてしまう。桜いわく、リンもレンも僅かながら違いがあるらしい。自分達を見分けてくれる桜が、リンもレンもとても大好きだ。

「おはよう、桜…」

「あっ、ハク…！おはよう…！朝…」はん有難うね

「い、いえ…！…殆どメイコが作ったの。私はただ手伝っただけで

…

「それだけでも十分ありがたいよ。本当にありがとう…！」

鏡音の双子と話していると、控えめに挨拶をしながらテーブルに食事を並べる白髪の女性。彼女は特殊な生まれ方をした派生VOCALOID、弱音ハク。桜は詳しい事は知らないらしいが、初音ミク

を使うユーチャー達の間でミクを上手く扱えない人達が生み出した VOCALOIDらしい。VOCALOIDファン達の間では派生キャラや亞種などと呼ばれているが、桜はそんなことお構い無しにハクをインストールした。桜いわく「美人は正義！」「らしい。そんなハクは、誕生の理由も影響しており…かなりの引っ越し込み思案で考え方がいつも弱気だ。ハクはそんな自分の性格がとても嫌いだったが、桜の「それもハクらしさでいいと思うよ?」という言葉で、自分の性格も個性なのだと受け入れたのだ。他のユーチャーが使うハクがどんな性格なのかはよく分からぬが、少なくとも友枝家のハクは…

「そうだ、今日のおやつはスコーンにしてよつと懲りの。リンとレンはそれでいい?」

「ハクが作るスコーン大好きだから、リンはいいよ…」

「オレも!!」

「分かったわ、じゃあ腕によりをかけて作るね」

確かに内気で弱気な部分もあるが、優しくとても前向きだ。そして何事にも取り組む姿勢は本当に努力家である。

「桜、おはよう」

「ルカ、おはよう。今日は寝坊しなかったんだね?」

「うん」

クアッと欠伸をしながらテーブルにやって来たのは、女性 VOCALOID の一人である巡音ルカ。ポーカーフェイスで口数も少なく、傍から見れば何を考えているのかイマイチ分からぬ… VOCALOID を扱う側としては非常に扱いにくい性格の持ち主である。しかし、そんなルカを見捨てることなく、むしろ桜はルカを溺愛していた。

「ルカ、今日のおやつはハクお手製のスコーンなんだってよ？」

「そうなの？ 楽しみだな…」

「いいなあ～、私も食べたい…！！ハクのスコーン美味しいんだよねえ…！」

「私の分、桜に残しておく」

「いやいや、ルカの分はルカが食べていいよ？」

「一緒に食べよう？」

「くうつ…！ルカ大好き…！」

「私も桜、大好き」

そしてそんな桜を、ルカも溺愛している。こんなどうしようもなく扱いづらい自分を邪険とせずに、インストールしてくれて愛してくれる。そんな桜が、ルカは大好きだ。

いや、友枝家に住むVOCALOID達は皆、桜のことが大好きだ。インストールしてすぐに、桜が決まってVOCALOID達に言う言葉…。

“マスターとVOCALOIDという関係じゃなくて、家族になろう？”

桜はVOCALOIDをただのPCソフトとして見るのではなく、1人の人間として見てている。そして同じ屋根の下に住むVOCALOID達に、同じように愛情を注いでいる。そこには、敬語なんて存在しない。

みんなに平等に歌を『えて、歌えばそれを素敵だと褒めてくれる。直した方がいいところは的確に教えてくれて、一緒に頑張ろうと笑いながら言ってくれる。

そんな優しさが、この友枝家には溢れている。

桜とVOCALOIDの関係はまさに、一つの家族なのだ。

朝食を終えて、桜はバタバタと準備を始める。桜はいわゆる腐女子という属性だが、普段はそうは見えない…バリバリのキャリアウーマンなのだ。某大手メーカーに勤めていて、仕事の腕もかなり認められている。

「じゃあ行つて来るね」

「行つてらっしゃい」

「あ、そうだ…！」

玄関を開けて外に出ようとしたとき、桜は思い出したようにMEIKOに言つ。

「もしかしたら今日、私宛に荷物が届くかも知れないから…メーちゃん代わりに受け取つてて？」

「荷物？また何か同人誌を通販したの？」

「いや、友達からの貰い物 また家族が増えるよ…！」

「コリ」と笑う桜。桜の言つ“家族”が何なのかすぐに分かったMEIKOは、「それは楽しみだわ」と嬉しそうに笑っていた。

家族が増えた。それは即ち、新しいVOCALOIDが友枝家に加わることだ。

「じゃあ、後の事は皆に任せたから！…くれぐれも…物を壊さないように…特にパソコン…！壊したら…！」

「そんな自殺行為しないから大丈夫。それよりほら、時間なくなるわよ？」

「おおう…？やっぱ…じゃあ、行つてきます…！」

車で出社する桜を一通り見送ると、MEIKOはふと考へた。

新たな家族とは一体、誰なのだろうか？

「届くところ事は、ハクのような亞種じやないひとよね…？」

うーん、と考えてふと脳裏を過ぎたのは…

「もしかして、カイトっていう男の人かしら…？」

何度も桜が見ている動画サイトで見かけた、まだこの家には居ないVOCALOIDのKAITO。桜は見るたびに口癖のように「彼も家族に迎えたい」と言つていた。

しかし…友達から貰うとは一体、どうこうことなのだろうか？

いつもなら通販でソフトを買って、それをインストールする。しかし今回は、桜の友達が無償で譲ってくれるようだ。

「ま、なんにしても楽しみね。そうだわ、がくぼにも教えてあげま
しょう」

実を言つと、桜と同じくらいKAITOが家族に加わる事を楽しみにしていたのは他の誰でもない、がくぼだった。この家にいるVO

CALOHDは女性ばかりで、成人男性型ががくぼしかいない。未成年型ならばレンがいるが、やはりがくぼとしては同じ年頃の男と腹を割つて話がしたいというのが本音だったのだ。まだあくまでKAITOかもしれないという可能性。だが、限りなく100%に近い可能性だ。

楽しそうに鼻歌を歌いながら、MEIKOはリビングへと戻つていった。

* * * *

真っ白い空間で、ゆらゆらと揺られる。

何度もこの感覚を味わつただろうか？

自分はまた、どこかに運ばれていたのだろうか？

いつぞ、『//廃棄場だつたらいいのに』。

「『』に行つても、誰も僕を必要とはしてくれない……」

『』でも白い空間を見つめながら、KAITOはポツンと呟いた。

そして……

「友枝さん、お届け物で～す！！」

「はーい、「」苦勞様です！！」

友枝家に…

「メイコ殿、それが桜殿の言つていた郵便物か？」

「そうみたい。カイトだつたらいいわね」

「ああ、そうだな」

その、郵便物が届けられた。

ああ、声が聞こえる…

「また、僕は誰かの手に渡つてしまつたのか…」

聞こえてきた声に悲観するKAITO。

「これが桜の言つてた新しい家族？」
「多分そ～よ。まだ開けたら駄目だからね？」
「リン、楽しみだな」「
「オレも！！」
「私もだ。どんな家族が増えるのか…早く対面したいものだ。」「
「わ、私…仲良くなれるかしら…？」

「ハク、大丈夫。ハクなら出来るよ。」

新しい家族の到着に嬉々とする者達。

この両者が対面するまで…あと、もう少し…。

01・VOCALOID（後書き）

本格的に話が動き始めるのは次からです^_^次の話でKAITOがインストールされる予定 今のところ、マスターの家族構成などは未定になっていますが…その内お話の中で明らかにしていこうと思っています!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2042q/>

F a m i l y !!

2011年1月18日22時10分発行